

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。



平成 28 年 3 月 16 日 **世田谷区自立支援協議会地域移行部会**を開催しました！

区内外から 36 名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

* この地域移行部会は、毎回テーマを設け、精神科病院に入院している方の地域移行に向けた支援の在り方や課題について検討しています。



*** 今回のテーマ ***

『精神科病院からの退院後、地域で継続して生活していくために ～退院後に利用できる社会資源と地域生活の状況』

今回の部会では、退院後の生活の支え手の一つとなる日中活動事業所の利用者の方と職員の方に、体験談や現在の地域生活についてお話いただき、地域生活で利用できる社会資源やその活用による地域生活の状況について、参加者全体で共有しました。



日中活動事業所（就労継続支援 B 型） 利用者の方と職員の方のお話

今回は、日中活動事業所（就労継続支援 B 型）の「ハーモニー」と「まごの手便」の職員の方と利用者の方（それぞれお二人）が発表してくださいました。そのお話を抜粋ですがご紹介させていただきます。

（今回は事業所のご希望で事業者名を掲載させていただきます。）

【ハーモニー】

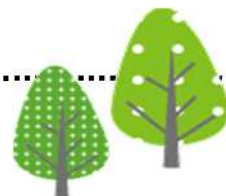
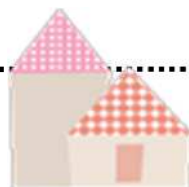


職員の方のお話

- ・作業より居場所中心の事業所。平均年齢 53 歳。週 1 回でも週 2 回でも顔を出してくれればよいと考えている。「間口を広く敷居を低く」を心がけている。
- ・メンバーの入退院の動向も確認し、入院中の面会・外出支援を行い、施設で待っているだけではなく積極的に行動をし、戻ってきたくような居場所作りを心がけている。入院期間は「地域と孤立している期間」であると考えているので、地域と何かとつなげようとした。

利用者の方のお話

- ・職員が入院中に日用品を買ってもらったり面会に来てくれたりした。退院の日、迎えにきてくれた職員とスィカを買って帰りみんなで食べた。退院後は、（**ハーモニー**に）なるべく通うようにしている。一人暮らしをしているが、トラブルがあったとき職員さんがすぐ駆けつけてくれて安心した。
- ・長い入院から退院できたのは、入院中に職員が病院に来てくれて、一緒に食事をしたりアパートを探してくれたり、グループホームに見学しに行ってくれたからである。財産の事も専門の方をお願いをしてくれた。アパートも事業所の近くに一緒に見つけてくれた。現在、ヘルパーさんに家事を手伝ってもらいながら、事業所に通っている。



【まごの手便】

職員の方のお話

・看護師が作ったグループホームが基になっている。生活基盤としての役割を果たす。定員 26 名で 30 名登録
毎日 12～13 名の方が来ている。

利用者の方のお話

・体調が悪くなったとき、事業所の職員の勧めで入院をした。退院後も事業所に通っていたが、再度入院とな
った。退院後は幸いにも以前住んでいたアパートに戻る事ができ、事業所の利用も再開した。困ったことが
あると、職員の方が来てくれる。日中活動での作業で工賃を稼いでいる。支援会議をしたら沢山の人が集まっ
てくれるので、大変ありがたいと思う。

・入院中、職員の方が来てくれた。病院の外部の人と話すのは楽しみだった。入院中に事業所の見学に行き、
食事が美味しいところが気に入った。退院当日、地域活動支援センターの職員のお迎えで帰宅した。この事業
所を選んだのは、開所が午後からであること、雰囲気よかったことが理由である。

・他の利用者からの意見として、「(まごの手便は) アットホームで、寝ていても誰も何も言わないところ、み
んなとしゃべったり、人と接することができるところが気に入っている。」「『障害者』っぽくふるまわなくて
もよい。」などがある。



グループワークによる意見交換(抜粋)

【感想】

- ・居場所の重要性をあらためて考えた。
- ・想像していた以上に手厚い支援
- ・日中活動事業所について固いイメージがあったが変わった。利用者の方の生活を見ている。
- ・当たり前な生活(住まい・通う)をおくことの大切さを痛感した。
- ・病院(入院)入口の部分で暗い気持ちになってしまう。出口・居場所としての必要性を改めて感じた。
- ・20代～40代年齢差のありながら居場所としての力があり、活かせるスタッフの力量がよい。

【お話の中から感じた「地域生活の秘訣」】

- ・生活していて、困ったときに相談できる場所があることがよい。見守りと安心そして信頼関係。
- ・地域と切れないこと。(中には家族とも関係性が薄くなり入院が長期化している人もいる)。仲間同士の支えあい。
- ・安心してつながれる人、そして退院するときに地域で待っていてくれる人がいることが大切。
- ・居場所の「あいまいさ」と職員のフットワークの軽さ。

【課題】

- ・事業所に「つながっている人」と「つながっていない人」の差。特に高齢の方にそのような場合が多い。
- ・病院内では他の入院されている方と比べて調子がよくないと、退院できないと思いがち。精神障害者地域移行促
進事業者など地域の支援者に本人の状況を見てもらうことも必要。
- ・相談支援事業所を探すのが大変。

引き続き地域移行部会では、精神科病院に入院している方への退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討
していきます。次回も、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。部会で取り上げたいテーマや事例などありま
したら、下記までご連絡ください。

